10回目の節目にあたって

この"箱根セミナー"も今年で10回目を迎える事になりました。上記箱根セミナーを"　"で囲ったのは箱根で行なうのは10回のうち5回で，大磯，伊豆で各1回，神戸で3回行なっているからです。本来なら各地を転々としたわけですから地名でない別の名前をつけるべきなのかも知れませんが「落ちこぼれセミナー」，「悪あがきセミナー」，「中年セミナー」等あまり芳しくない声が聞こえた事もあり（今も聞えるかも知れませんが少々耳も遠くなりました），あえて抗らうこともなく名無しのセミナーで10回目を迎えてしまいました。振り返って何故こんなセミナーを作ったかを考えてみますと私が遠く札幌の地でGeometrical Topologyの微妙で難かしい所を良く理解してくれる人達に徹底的に批判してほしかった事，またその頃創立のメンバー達は30代前半でようやく借り物でない自分の問題を見つけ出し，従って殆んど参考文献も無く頼りになるのは自分だけとなって各自のかゝえている難かしい所を徹底的に議論し合おうという気運になっていたのでは無いかと思います．従って1人の持ち時間は半日で正につぶされるか生きのびるかの議論をしたものでした。そして最終日は予備日として取っておいて，つぶされた人は最終日にリターン・マッチをやるというものでした。小さなセミナーのため旅費，宿泊費も校費が使えたり，使えなかったりで，私が一番遠かったものですから夏休みに東京の実家に帰る時に日程を合わせて貰ったり，多くは解析研シンポジュウムの前後や，秋の学会の前後に日程を合わせたりしたものでした。そして出来るだけ宿泊費が安くてしかもセミナーが快適に出来るようにと伊豆，箱根辺りの時は相模工大の津久井康之氏，神戸の時は神戸大の池田裕司氏に大変お世話になりました。また最近4年程は東洋大学の大変快適な箱根研修所を東洋大の山下正勝氏の御便宜で利用させて貰っています。近年は科研費からの援助も載けるようになり立派な

講究録も出来るようになり，地道な努力が認められたと参加者一同喜んでいますが 公費がつくと何となく肩苦しくなったなという気もしています。 また参加者も増えたので1人の持ち時間も短かくなりましたが それでも希望すれば2時間でも3時間でも時間が取れ，一方通行の講演でなく，途中で意地の悪い質問も出て段々話が脱線していってしまうという雰囲気も十分残っています。 この様な雰囲気を大切に，時流に流される事無く，無理に質の高さを求める事も無く，気がついたら注目されていた等という出の良い事を夢みながら このセミナーを続けて行きたいと思っています。

創立のメンバーのうち一番年令が高いという事で駄文を書く光栄に浴した事を感謝します.

1987. 11.

東京女子大学文理学部
小林一章